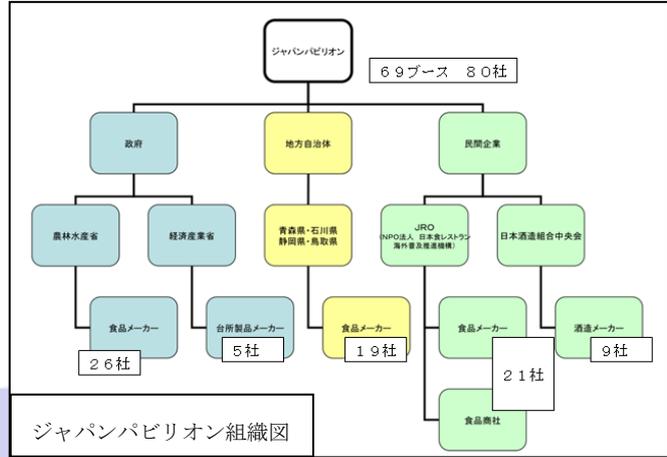


NY 国際レストラン&フードサービスショー

ニューヨーク事務所

2月27日(日)から3月1日(月)まで、ニューヨーク市ジャビッツコンベンションセンターにて、レストラン・ホテルなど食品業界関係者を対象とした国際見本市「NY 国際レストラン&フードサービスショー」が開催されました。

同見本市には、5年前から日本食関連商品のみをまとめて紹介・展示するジャパンパビリオンが立ち上がり、今回は69ブース、参加企業数80社が集結しました。このうち自治体からは、青森県、石川県、静岡県、鳥取県(12ブース19社)が出展しました。



今回の自治体出展企業の多くは海外での見本市を経験しており、アジアに加え北米でも販路拡大を目指そうとする意気込みが感じられました。また、すでにアメリカへ輸出している企業も、商品価値が理解され、世界へ強い情報発信力・影響力を持つニューヨークの市場に

期待していることがうかがえました。出展自治体は、企業選定やブースへの招待者のリストアップなど綿密な準備を重ねており、行政と企業が一体となって取り組んでいました。

クレアニューヨーク事務所では、事業主催者との調整のほか、個別の問い合わせへの対応、必要情報の提供などを行いました。これらは、出展自治体が準備を進める際に大変役立ったとのことです。また、クレアの海外活動支援のひとつである、「パンフレットなどの必要資材の事務所一時預かり」を利用した自治体からは、こうしたサービスはこれまで知らなかったのが今後活用したいと好評でした。

見本市初日は昨年以上の来場者で混み合い、特にジャパンパビリオンは身動きがとれないほど大盛況でした。今年は、これまでの日本酒、緑茶などに加え、佃煮、麺などの出展も多く、B級グルメ、麺ブームを反映していたようです。出展企業からは、シェフの来場が多く、プロから試食の感想・意見を率直に聞いて商品開発の参考になる、想像以上に好評で今後の取引の話もあったなどといった反響がありました。



会場は国際色豊かで、アメリカ市場の多様性とスケールの大きさに驚かされます。その中で、統一仕様のブースでまとまって日本食材を紹介したジャパンパビリオンは連日活気にあふれ、ニューヨークで定着しつつある日本食の勢いを強くアピールしていたように感じました。

また、2月27日夕方からは、在ニューヨーク日本国総領事館大使公邸にて「日本食品関連企業交流会」（主催：総領事館、JETRO、クレア）が開催されました。ここでは、レストランショー・ジャパンパビリオン出展関係者とニューヨーク食関係者ら約250名が招かれ、日本食品・食材のさらなる普及を目指し、相互交流を深めました。

（西田所長補佐 島根県出雲市派遣）